

平成30年度  
宜野湾市平和学習派遣事業

派遣報告書

平成30年8月7日～8月10日  
長崎県長崎市



## 市長あいさつ

平和学習派遣事業は平和行政の推進を目的に、平成17年度より開始され、今年度で13回目の実施となりました。市内各小中学校から選出された児童生徒を被爆地長崎へこれまでに述べ104名を派遣し、毎年8月7日に行われる「平和祈念式典」及びその前日より2日間に渡り開催される「青少年ピースフォーラム」に参加し、全国の青少年と共に、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでおります。



先の大戦で経験した、沖縄での地上戦や広島・長崎を一瞬にして廃墟と化した原子爆弾投下。このような惨劇が二度とこの地球上で繰り返されることのないよう、過去の歴史をしっかりと若い世代へ伝えていく、そしてその中で平和の大切さを改めて実感させ、「戦争も核兵器もない、平和で希望ある世界」を目指す、という本事業の役割は戦後70年余りが経過した今日、ますます重要となっております。

唯一の被爆国として、日本が、核兵器廃絶の実現に向け、国際社会において主導的役割を果たすことを期待いたします。

本市におきましても、昭和60年に反核・軍縮平和都市宣言を行い、平和市長会議と連携し、核兵器の非人道性を訴え、全世界に向けて核兵器廃絶を求め続けております。

現在、日本国土のわずか0.6%の小さな島沖縄に、在日米軍施設の約74%が存在しております。市域の約30%が米軍基地に占められ、なかでも市の真ん中に居座る普天間基地は市域の約25%を占め、ドーナツ状の街を形作っております。この特異な地形は、市の発展を大きく阻み、そして何より市民の生命・財産を脅かし続けております。さらに、2012年からは、普天間飛行場へMV-22オスプレイが強硬配備されたことにより、市民の基地負担はもはや限界に達していると言わざるを得ません。ついては、関係機関と連携し、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還に向け取り組んでまいります。

さて、今年には戦後74年になります。年々戦争体験者が減少していることに伴い、戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継いでいくことが困難となりつつあります。しかしながら、今を生きる私たちは、次の世代へと戦争の悲惨さ、平和の大切さを継承していく義務があります。派遣生徒の皆様には、今回の平和学習を通して、命がいかに尊くかけがえのないものなのかを学び、これからも平和を強く意識し成長されることを願います。

本市といたしましても、沖縄戦及び原子爆弾によりお亡くなりになられた人々を追悼し、再び悲惨な戦争が起こらないよう、平和事業をとおして平和の大切さ、命の尊さを次の世代へと語り継いでまいります。

最後に、この事業にご参加いただきました生徒やその保護者の方々へ、本事業への多大なるご理解ご協力に対して御礼を申し上げますとともに、市民の皆様には平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望のある世界」が実現されることを祈念いたします。

平成31年3月  
宜野湾市長 松川 正則

  
**目次**  


実施概要	3
団員名簿	4
事前学習	5
派遣日程	6
青少年ピースフォーラム	7-9
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典	10
長崎平和宣言（長崎市長 田上 富久）	11-12
平和への誓い（被爆者代表 田中 熙巳）	13
その他 資料	14
派遣生徒報告	
■ 普天間中学校	1年 上村 尚太郎 15
■ 普天間中学校	1年 渡名喜 優美佳 16
■ 真志喜中学校	1年 源河 来一 17
■ 真志喜中学校	1年 当間 優奈 18
■ 嘉数中学校	1年 金城 七星 19
■ 嘉数中学校	1年 座間味 優奈 20
■ 宜野湾中学校	1年 知念 李樹 21
■ 宜野湾中学校	1年 仲村 彩葉 22
実施要綱	23-24
平和都市宣言（宜野湾市）	25

# 実施概要

## 1. 背景と目的

戦後 70 年余りが経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が減少している今日、戦争を知らない世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

特に本市においては、沖縄戦当時嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

この過去の事実をしっかりと捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

本市では市内生徒（中学生）を対象に、沖縄戦を学びながら、去る大戦での被爆地長崎を訪問する「宜野湾市平和学習派遣事業」を実施しております。

毎年 8 月 9 日に開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」へ参加し、全国の青少年と交流をする中から命の尊さや平和の大切さを学ぶことによりこれからの平和な社会を築くことを目的とします。

## 2. 実施経過

- 平成 30 年 4 月 16 日  
宜野湾市長より宜野湾市教育委員会へ事業協力依頼  
市内各中学校校長へ派遣生徒の推薦依頼
- 平成 30 年 7 月 13 日  
派遣生徒・保護者を対象に事業説明会
- 平成 30 年 7 月 25 日  
派遣生徒を対象に事前学習会
- 平成 30 年 8 月 7 日～10 日  
長崎市で平和学習実施
- 平成 30 年 8 月 21 日  
市長・教育長・保護者及び学校関係者へ学習報告会



  
 団員名簿（平成 30 年度宜野湾市平和学習派遣事業）  


学 校 名	氏 名	学 年
普天間中学校	上村 尚太郎	1 年
普天間中学校	渡名喜 優美佳	1 年
真志喜中学校	源河 来一	1 年
真志喜中学校	当間 優奈	1 年
嘉数中学校	金城 七星	1 年
嘉数中学校	座間味 優奈	1 年
宜野湾中学校	知念 李樹	1 年
宜野湾中学校	仲村 彩葉	1 年
嘉数中学校 教諭	安慶名 満貴	引率
宜野湾市役所 市民協働推進課	里村 圭祐	事務局

# 事前学習

長崎への派遣に先立ち、第2次世界大戦における唯一の地上戦である沖縄戦について学ぶため、宜野湾市立博物館・チヂフチャーガマ・嘉数高台公園等で学習を行いました。

期 日：平成30年7月25日（水）9:00～17:00

場 所：野嵩石畳道・森川公園・宜野湾市立博物館・チヂフチャーガマ・嘉数高台公園

## 野嵩石畳道

護佐丸や阿麻和利の歴史を学び、日常の中にも琉球史と繋がる史跡があることを現地で実感しました。



## 森川公園（森の川）

察度王に関連する歴史や羽衣伝説について学ぶことができました。

## 宜野湾市立博物館

「見て、聞いて、触れて宜野湾の生活史を体感して学ぶ」をテーマに、午前中の学習内容を振り返りつつ、沖縄戦の概要について学びました。



戦時中、チヂフチャーガマに避難していた住民の様子をガマの中へ入り体感しました。

## 嘉数高台公園

沖縄戦最初の激戦地であり、市内を360°見渡せる高台では、戦前～戦後の流れや住民の被害について学びました。



  
**派遣日程(平成30年度 宜野湾市平和学習派遣)**  


日付	時間	日 程
第1日目 8月7日 (火)	8:30 9:40 11:25  15:00  18:30 20:00 21:00	那覇空港国内線3階：ANAツアーカウンター前集合 那覇発 全日空1202便にて福岡へ 福岡空港着 貸切りバスにて長崎へ（所要時間/約2時間30分） バス車内にて昼食お弁当  貸切りバスにて長崎市内視察 ◎出島資料館 ◎グラバー園  レストランにて夕食 ◎稲佐山ロープウェイ ホテル着
第2日目 8月8日 (水)	7:00  9:00  12:00  13:00 14:00 15:10  18:00 19:30 20:00	ホテルにて朝食 各自にて移動 ◎原爆資料館見学 ◎浦上天主堂 ◎如己堂 ◎平和公園など  園田真珠にて昼食  ピースフォーラム参加受付（平和会館ホール） 開会行事（被ばく体験講話など） 班別交流会（15：10～17：20） 青少年ピースフォーラム（Aコース）  夕食交流会（長崎新聞文化ホール） 交流会終了後、ホテルへ ホテル着
第3日目 8月9日 (木)	7:00  8:00  10:35  12:00  13:30  19:00	ホテルにて朝食  各自にて移動  <b>「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」</b>  和泉屋にて昼食  青少年ピースフォーラム（Aコース）  見学後、市内レストランにて夕食 ホテル着
第4日目 8月10日 (金)	7:00 8:00 10:30  11:40  13:00 13:30 15:25 17:10	ホテルにて朝食 専用バスにて移動（所要時間/約2時間30分） ◎九州国立博物館  太宰府天満宮 見学 太宰府天満宮本殿裏「照星館」にて昼食（合格御膳）  太宰府天満宮 出発 福岡空港着 ⇒ 搭乗手続き 福岡発 ANA1209便にて沖縄へ 那覇空港着

  
**青少年ピースフォーラム**  


平成30年度 青少年ピースフォーラム

期日：平成30年8月7日(火)～10日(金)

主催：長崎市

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団約500人の青少年のみなさんと、長崎の青少年ピースボランティアの皆さんと一緒に、被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として実施しています。

このフォーラムには、長崎市青少年ピースボランティアの高校生や大学生も参加し、平和学習の進行やフィールドワークの案内などを行っています。

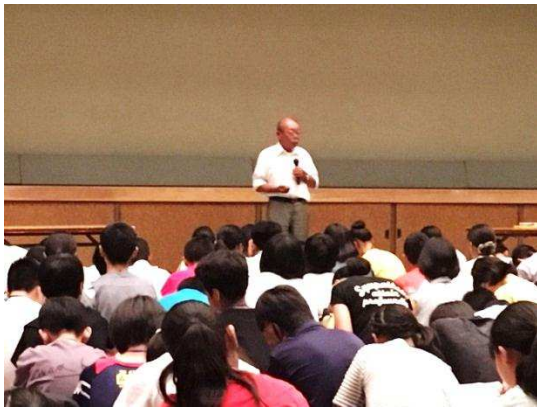
宜野湾市は、平和学習Aコースに参加しました。

■ プログラム

日	時	内 容 <場 所>	
1日目 8/8 (水)	14:00 ～15:15	1) 開会行事(被爆体験講話など) <平和会館ホール>	
	15:25 ～17:25	【コース別の平和学習】長崎原爆の実相について学びます。	
		<<Aコース>> 2) 平和学習<平和会館ホール> こじんまりフィールドワーク (屋外) <原爆資料館周辺>	<<Bコース>> 2) 被爆建造物等の フィールドワーク (屋外) <原爆資料館周辺>
	18:00 ～19:30	3) 交 流 会 (希望者) <長崎新聞文化ホール>	
2日目 8/9 (木)	午前	4) 原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列<平和公園ほか> もしくは、4) 長崎市立中学校での平和集会への参加	
	13:30 ～15:30	【コース別の平和学習】平和について考えます。	
		<<Aコース>> 5) 平和学習 <平和会館ホール>	<<Bコース>> 5) 平和学習 <長崎ブリックホール国際会議場>



# 青少年ピースフォーラム Aコース1日目



## ■ 被爆体験講話

講師 小峰 秀孝さん(被爆当時4歳8ヶ月)

爆心地より1.5kmの自宅近くの畑で被爆、両手、両足、腹を火傷し、足は3回手術を受ける。「戦争や原爆の恐ろしさを次の世代に伝えていくことが被爆者の役目」と現在語り部として活動している。

(公財)長崎平和推進協会 HP より

## ○グループ学習

ピースボランティア(学生)の進行のもと、アイスブレイク。スライドを使用し、被爆の実相や長崎市における平和に関する取組を紹介。その後、紙芝居「城山国民学校の物語」・平和2択クイズ・フィールドワークを行い、戦争と平和について学びました。



▲自己紹介



▲二者択一クイズ



▲ふりそでの少女像



▲紙芝居「城山国民学校の物語」



▲原爆殉難教え子と教師の像



▲フィールドワーク

## 夕食交流会

長崎市が主催するフォーラム参加団体が集う夕食交流会へ参加しました。全国から集まった青少年と交流を図ることができました。



# 青少年ピースフォーラム Aコース2日目

2日目は、長崎に投下された原爆やその時の被害状況等について学んだ後に、グループごとに分かれ、「戦争の原因とみんなにできる解決策」について議論し、その内容を各グループで発表を行いました。



▲グループで話し合い



▲自分の意見を書き出し



▲グループの意見をまとめている様子



▲グループ内での発表



▲みんなの意見を貼ったハートのパネル



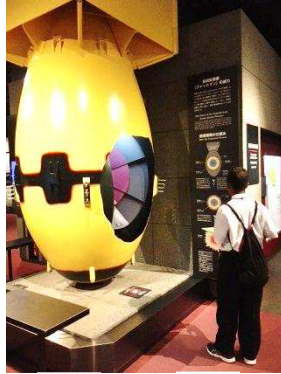
▲Aコース参加者全員と集合写真

  
**長崎原爆資料館見学（8月8日）**  


原爆資料館では、爆風で破壊された建物、熱線によって溶かされた皮膚、放射線による病気など、一発の原爆によって一瞬にして変わってしまった長崎の街や人々の被爆の状況について、また、今なお存在する核兵器とその脅威について学びました。



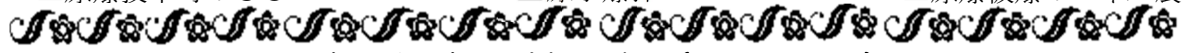

▲原爆投下時のCG



▲原子爆弾



▲原爆被爆のパネル展

  
**長崎原爆資料館見学（8月9日）**  




▲平和祈念像



▲式典会場前



▲会場へ向かう道



▲式典へ参列

長崎市の平和公園で開催された「被爆 73 周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列しました。長崎で原子爆弾がさく裂した 8 月 9 日午前 11 時 2 分に、原爆犠牲者への慰霊の為黙とうを行いました。そして、長崎平和宣言、平和への誓い、被爆者合唱等が行われ、核兵器の廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを誓いました

# 長崎平和宣言

73年前の今日、8月9日午前11時2分。真夏の空にさく裂した一発の原子爆弾により、長崎の街は無残な姿に変わり果てました。人も動物も草も木も、生きとし生けるものすべてが焼き尽くされ、廃墟と化した街にはおびただしい数の死体が散乱し、川には水を求めて力尽きたたくさんの死体が浮き沈みしながら河口にまで達しました。15万人が死傷し、なんとか生き延びた人々も心と体に深い傷を負い、今も放射線の後障害に苦しみ続けています。

原爆は、人間が人間らしく生きる尊厳を容赦なく奪い去る残酷な兵器なのです。

1946年、創設されたばかりの国際連合は、核兵器など大量破壊兵器の廃絶を国際総会決議第1号としました。同じ年に公布された日本国憲法は、平和主義を揺るぎない柱の一つに据えました。広島・長崎が体験した原爆の惨禍とそれをもたらした戦争を、二度と繰り返さないという強い決意を示し、その実現を未来に託したのです。

昨年、この決意を実現しようと訴え続けた国々と被爆者をはじめとする多くの人々の努力が実り、国連で核兵器禁止条約が採択されました。そして、条約の採択に大きな貢献をした核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）がノーベル平和賞を受賞しました。この二つの出来事は、地球上の多くの人々が、核兵器のない世界の実現を求め続けている証です。

しかし、第二次世界大戦終結から73年がたった今も、世界には14,450発の核弾頭が存在しています。しかも、核兵器は必要だと平然と主張し、核兵器を使って軍事力を強化しようとする動きが再び強まっていることに、被爆地は強い懸念を持っています。

核兵器を持つ国々と核の傘に依存している国々のリーダーに訴えます。国連総会決議第1号で核兵器の廃絶を目標とした決意を忘れないでください。そして50年前に核不拡散条約（NPT）で交わした「核軍縮に誠実に取り組む」という世界との約束を果たしてください。人類がもう一度被爆者を生む過ちを犯してしまう前に、核兵器に頼らない安全保障政策に転換することを強く求めます。

そして世界の皆さん、核兵器禁止条約が一日も早く発効するよう、自分の国の政府と国会に条約の署名と批准を求めてください。

日本政府は、核兵器禁止条約に署名しない立場をとっています。それに対して今、300を超える地方議会が条約の署名と批准を求める声を上げています。日本政府には、唯一の戦争被爆国として、核兵器禁止条約に賛同し、世界を非核化に導く道義的責任を果たすことを求めます。

今、朝鮮半島では非核化と平和に向けた新しい動きが生まれつつあります。南北首脳による「板門店宣言」や初めての米朝首脳会議を起点として、粘り強い外交によって、後戻りすることのない非核化が実現することを、被爆地は大きな期待を持って見守っています。日本政府には、この絶好の機会を生かし、日本と朝鮮半島全体を非核化する「北東アジア非核兵器地帯」の実現に向けた努力を求めます。

長崎の核兵器廃絶運動を長年牽引してきた二人の被爆者が、昨年、相次いで亡くなりました。その一人の土山秀夫さんは、核兵器に頼ろうとする国々のリーダーに対し、こう述べて

います。「あなた方が核兵器を所有し、またこれから保有しようとするのは、何の自慢にもならない。それどころか恥ずべき人道に対する犯罪の加担者となりかねないことを知るべきである」。もう一人の被爆者、谷口稜暉さんはこう述べました。「核兵器と人類は共存できないのです。こんな苦しみは、もう私たちだけでたくさんです。人間が人間として生きていくためには、地球上に一発たりとも核兵器を残してはなりません」。

二人は、戦争や被爆の体験がない人たちが道を間違えてしまうことを強く心配していました。二人がいなくなった今、改めて「戦争をしない」という日本国憲法に込められた思いを次世代に引き継がなければならないと思います。

平和な世界の実現に向けて、私たち一人ひとりに出来ることはたくさんあります。

被爆地を訪れ、核兵器の怖さと歴史を知ることはその一つです。自分のまちの戦争体験を聴くことも大切なことです。体験は共有できなくても、平和への思いは共有できます。

長崎で生まれた核兵器廃絶一万人署名活動は、高校生たちの発案で始まりました。若い世代の発想と行動力は新しい活動を生み出す力を持っています。

折り鶴を折って被爆地に送り続けている人もいます。文化や風習の異なる国の人たちと交流することで、相互理解を深めることも平和につながります。自分の好きな音楽やスポーツを通して平和への思いを表現することもできます。市民社会こそ平和を生む基盤です。「戦争の文化」ではなく「平和の文化」を、市民社会の力で世界中に広げていきましょう。

東日本大震災の原爆事故から7年が経過した今も、放射線の影響は福島の方々を苦しめ続けています。長崎は、復興に向け努力されている福島の方々を引き続き応援していきます。

被爆者の平均年齢は82歳を越えました。日本政府には、今なお原爆の後障害に苦しむ被爆者のさらなる援護の充実とともに、今も被爆者と認定されていない「被爆体験者」の一日も早い救済を求めます。

原子爆弾で亡くなられた方々に心から追悼の意を捧げ、私たち長崎市民は、核兵器のない世界と恒久平和の実現のため、世界の皆さんとともに力を尽くし続けることをここに宣言します。

2018年（平成30年）8月9日

長崎市長 田上富久

## 平和への誓い

1945年8月9日、13歳だった私は、爆心地から3.2キロ離れた自宅の2階で被爆しました。爆風で飛んできた大きなガラス戸の下敷きになりましたが、奇跡的に無傷で助かりました。

3日後の今ごろ、私は、家屋が跡形もなく消滅し、黒焦げの死体が散乱するこの丘の上を歩き回っていました。探し当てた父方の伯母の家屋跡には、黒焦げになった伯母たち家族の遺体が転がっていました。この時、丘の下の上野町では、3日間生きながらえた母方の伯母の遺体をトタン板に載せて焼いていました。焼き終えた人の形をとどめた遺骨を見たとき、優しかった伯母の姿が目に見え、その場に泣き崩れました。原爆により身内5人の命が一挙に奪われました。この日一日、私が目撃した浦上地帯の地獄の惨状を私の脳裏から消し去ることはできません。原爆は全く無差別に、短時日に、大量の人々の命を奪い、傷つけました。そして、生き延びた被爆者を死ぬまで苦しめ続けます。人間が人間に加える行為として絶対に許されない行為です。

全国に移り住んだ被爆者たちは、被爆後10年余り、誰からも顧みられることなく、原爆による病や死の恐怖、偏見と差別などに一人で耐え苦しみました。

ビキニ環礁での、1954年3月1日のアメリカの水爆実験による「死の灰」の被害に端を発し、全国に広がった原水爆禁止運動に励まされて、1956年8月、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が結成されました。

日本被団協に結集した被害者は、「同じ苦しみを世界の誰にも味わわせてはならない」と原爆被害の残虐な真相を、国の内外に伝え、広げ、核兵器の非人道的な被害に焦点が当てられるようになるなか、長年にわたる被爆者と原水爆禁止を願う市民社会のさまざまな活動、さらにICANの集中的なロビー活動などが実を結び、2017年7月、「核兵器禁止条約」が国連で採択されました。被爆者が目の黒いうちに見届けたいと願った核兵器廃絶への道筋が見えてきました。これほど嬉しいことはありません。

ところが、被爆者の苦しみと核兵器の非人道性を最もよく知っているはずの日本政府は、同盟国アメリカの意に従って「核兵器禁止条約」に署名も批准もしないと、昨年、原爆の日、総理自ら公言されました。極めて残念でなりません。

核兵器国とその同盟国は、信頼関係が醸成されない国が存在する限り、核抑止力が必要であると弁明します。核抑止力は核兵器を使用することが前提です。国家間の信頼関係は徹底した話し合いで築くべきです。

紛争解決のための戦力は持たないと定めた日本国憲法第9条の精神は、核時代の世界に呼びかける誇るべき規範です。私は、多くの先人たちの働きを偲びつつ、速やかに「核兵器禁止条約」を発効させ、核兵器もない戦争もない世界の実現に力を尽くすことを心に刻み、私の平和への誓いといたします。

2018年（平成30年）8月9日

被爆者代表 田中 熙巳

# その他 資料

8/21

## 被爆地・長崎での平和学習を報告

市では、平和の尊さを学び平和思想に対する啓発を高めるために、市内各中学校の生徒を被爆地長崎市へ派遣しています。事前学習として、市博物館や市内戦跡を巡り、沖縄戦や戦争時の宜野湾について学びました。長崎では、青少年ピースフォーラムへ参加し、「戦争の原因って何だろう」をテーマに、積極的に意見を交わしました。また、平和祈念式典へも参列し、原爆被害者の冥福と世界恒久平和を祈りました。



『派遣生徒の感想』（抜粋）

普天間中学校 1年 上村 尚太郎

・平和というものはみんなが、笑顔でいるだけでなく一人一人が優しく温かい心を持つことだと思います。

普天間中学校 1年 渡名喜 優美香

・長崎・広島での原爆投下で尊い命が失われた事を忘れず無くなった方達の分まで、私自身一生懸命生きていきたいと思いました。

真喜志中学校 1年 源河 来一

・沖縄戦は地上戦でしたが、原爆は一発の爆弾によって多くの人が亡くなったので、大きな原爆だと平和学習を通して分かりました。

真志喜中学校 1年 当間 優奈

・戦争の恐ろしさを忘れない様に、戦争・原爆で今も苦しんでいる人達の想いを、できる限り多くの人に伝えていきたいです。

嘉数中学校 1年 金城 七星

・私は戦争を起こしてはいけないという気持ちを、いろんな人達に伝えていこうと思いました。

嘉数中 1年 座間味 優奈

・学んできたことを忘れず、「まわりの人々へ発信する」ということを頑張り、そして平和のために努力していきたいです。

宜野湾中学校 1年 知念 李樹

・普通に過ごせるのは、とても幸せだということを平和学習で学び、多くの人に伝えていきたいです。

宜野湾中学校 1年 仲村 彩葉

・これから私たちが生きていく世界が平和であるために、今、自分にできる些細なことから一生懸命やっっていこうと思っています。

8/17

### ポスター作り ポスター作成中！



11/11

### in サンエー宜野湾コンベンションシティ 「はごろもピースショー2018」開催



ヒーローショー「はごろもピースショー」がサンエー宜野湾コンベンションシティで開催されました。長崎派遣生徒によるストーリーテリング型報告会、劇団O.Z.Eによる「お笑い×平和」を基にしたオリジナルのヒーローショーの公演、パネル展が行われました。子どもからお年寄りまで、多くの方が来場し、大いに盛り上がりました。

9/18

### 平和について考える 市内各中学校でお笑い芸人による平和劇



市内の各中学校で、沖縄の芸人劇団O.Z.Eによる平和劇が行われました。平和劇を楽しみながら、戦争・平和への情緒をみんなで共感できる作品でした。「宜野湾市史」を基に体育館を沖縄本島に見立て、戦争を体感する移動ワークで盛り上がりました。

12/28

### 平和パネル展 市役所内ロビーにて生徒の学習成果報告



## 派遣生徒報告



### 「平和とは何だろう」

普天間中学校 1年  
上村 尚太郎

ぼくは、八月七日から八月十日までの日程で平和大使として宜野湾市長崎派遣事業に参加しました。この学習に参加した理由はぼくが住んでいる沖縄で唯一の地上戦が七十三年前にあり、たくさんのぎせい者を出しました。

でも、沖縄だけではなく、同じ日本で長崎と広島に原爆が投下されていることを知っていて、この機会に原爆の恐ろしさと悲惨さについて学ぼうと考えたからです。

ぼくたちは、福岡空港に着いてすぐにバスで2時間ぐらい走りました。長崎はたくさんの建物もあってきれいな街並みで、被爆した場所とは思えませんでした。

次の日、ぼくたちは原爆資料館へ行きました。そこには原爆の恐ろしさを考えさせられる、曲がっている鉄柱や、目を背けたくなる写真も数多くあり、その中でも原爆投下時刻十一時三分で止まっている時計が恐ろしさを物語っていました。

午後は、ピースフォーラムに参加して被爆者の話を聞きました。

空がピカッと光ったと思ったら目の前は一瞬にして火の海となっていたそうです。

その時にやけどした物が今でも体に残っていると聞いて、ぼくはたった一発でこんなに被害があることに息が止まる思いでした。

そしてそこで、ぼくは色紙にマジックペンで心を込めて「物より人を大切にする」と書きました。この言葉には欲望や権力争いによって人の命の尊さが見えなくなるようなことは絶対にあってはいけないと強く願いが込められています。

それから、ただ言葉だけを言うのではなく、日々の生活の中で実行して行って、友達との関係や家族との和も大切にしていきたいです。

今回の平和学習は今のようによくたくさんの学びがあり自分自身の進歩もありました。

ぼくは、平和というものみんなが笑顔でいるだけではなくて、一人一人が優しく温かい心を持つことだと思いました。



# 派遣生徒報告



## 「平和について学んだこと」

普天間中学校 1年  
渡名喜 優美香

私は、8月6日～10日の4日間長崎へ派遣へ行き、原爆資料館や、ピースフォーラム、平和祈念式典にも参加してきました。

まず、長崎にはファットマン。広島にはリトルボーイが落とされました。ファットマンは重さ4.5t、長さ3.25m、直径1.52mあります。私はそのファットマンの模型を資料館で見る事が出来ました。とても大きく、その名の通り太った人の様でした。しかし、わずか長さ3m、直径1.52mの「モノ」が一つの都市をはかいる様には見えませんでした。ですが、実際は、一瞬で7万人もの命がうばわれたのかと思うととても恐怖を覚えました。

次に、平和祈念式典では、原爆で亡くなられた方の親族や、内閣総理大臣、色々な人達が参加していました。平和祈念式典の会場の正面には「平和祈念像」という、平和を祈る男神（おかみ）の像が建てられています。垂直に高くあげた右手は地上500m上空で爆破した原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を、横にした足は原爆が投下直後の長崎の静けさを、立てた足は救った命を表し、軽くとした目は戦争犠牲者の冥福を祈っています。私は、像の腕、足、目などの一つ一つに意味が込められていると知りとても感動しました。

ピースフォーラムでは主に戦争について考えるなどをしました。その中で、一番心に残ったことは被爆者の方による体験談です。被爆者の方の体にはケロイドがあり、片足が原爆の為に不自由な状態だったと語っていました。幼い頃から被爆者だったという理由でいじめられたり、差別されたり、死のうと思ったこともあったそうです。原爆で生き残ったにも関わらずいじめられ差別され、とてもひどい仕打ちを受け辛かったと思います。原爆で亡くなられた方々は、とつじょ空に現れた一つの爆弾のせいで人生を狂わされ、死んでいきました。こんな事がもう二度と行われてはいけません。ですが、悲しい事に世界には1万5000発の核兵器が存在します。今まで2発しか使われていない物が1万5千発もあるのです。使わなくても使おうと思えば使えるのです。これはとても恐ろしい事です。

こんな事はもう、二度とおきてはなりません。なので、私はこの4日間で学んだ事を戦争を知らない人達へと語りつぎ後世へ残していきます。そして、73年前に起きたこの沖縄での地上戦、長崎・広島での原爆投下で尊い命が失われた事を忘れず亡くなった方達の方まで、私自身一生懸命生きていきたいと思いました。

## 派遣生徒報告



### 「平和学習から学んだこと」

真志喜中学校 1年  
源河 来一

ぼくは長崎の原爆について3泊4日の日程で、九州に行って来ました。長崎原爆資料館では、73年前に落とされた原爆の写真資料がたくさんあり、1945年8月9日、1発の原子爆弾によって尊い約7万人の命が一瞬にしてぎせいとなった事をぼくは始めて知りました。落とされた実物大模型はファットマンと呼ばれ、その原爆は周りの火薬でプルトニウムを内側に爆縮して核分裂を起こす作りになっています。多くの方が、爆風によってぎせいになりました。爆風による被害では500m。つまり、真志喜中学校からコンベンションセンターぐらい離れた鉄筋コンクリート三階立ての校舎は被爆直後はかろうじて骨格をとどめていたが、爆風でもろくなっていたこともありその後の雨や風などにより三階からくずれ落ちたそうです。

原子爆弾は、プルトニウム等が核分裂するときに発生するエネルギーを兵器として利用したもので、通常の爆薬に比べるとはるかに大きな破壊力をもっています。核分裂の際に、発生するガンマ線や中性子線などの放射線は長い期間にわたり人体に深刻な障害を与えます。長崎の住民などに被害を与えたのは原爆だけでなく放射線による被害も多く放射線の影響により髪の毛が抜けたり、がんにかかったりしたそうです。こういった中で、生き延びた人もいて、その生き延びた人は永井隆さんという明治41年2月3日に誕生しました。この方は長崎医科大学病院で被爆し、大ケガを負った博士でしたが、わが身もかえりみず生き残った医師や看護婦、技師とともに家族の消息もたずねないまま、何度も意識を失いながら救護活動を行いました。意識を失いながらも、救護活動を行った永井さんは、とてもすばらしいと感じました。8月9日、長崎県で原爆があった日ぼくたちは長崎原爆式典に参加しました。その場所は、原爆落下中心地一帯に、平和の願いを込めて作られた平和公園で、その中心には北村西望作のブロンズ像が天をさした右手で原爆の脅威、水平にのばした左手で平和を表し、軽くとしたまぶたは原爆犠牲者の冥福を祈っているそうです。平成式典では多くの人々が参加し、そして多くの祈りをささげました。平和公園には平和がつづいてほしいという思いがこもった千羽づるがたくさん並んでいました。

沖縄戦で亡くなった一般市民の方は約9万4000人で長崎に落とされた原爆で亡くなった人の数は約7万人、沖縄戦は地上戦でしたが、原爆は一発の爆弾によって多くの方が亡くなったので、とても大きな原爆だと平和学習を通して分かりました。

## 派遣生徒報告



### 「私達にできる事」

真志喜中学校 1年  
当間 優奈

千九百四十五年、昭和二十年八月九日午前十一時二分、長崎に一発の原子爆弾が投下されました。それによって、長崎は一瞬で破壊され、死者・負傷者ともに、七万人をこえる大きな被害がもたらされました。私は、戦争の時に、長崎・広島に原爆が落とされたということは知っていましたが、このようなとても大きな被害だということには驚きました。

八月七日から十日にかけて、私は、平和学習のため、長崎に行きました。そこで原爆についてたくさんのことを学びました。その中でも心に残ったことがあります。

それは、小峰秀孝さんの講話です。小峰さんは被害者です。そのせいで、学校ではいじめられたり、仕事に就けなかったりと、たくさんの苦勞をしてきました。ですが、今、小峰さんは、自分にしかできないことをしています。それは「戦争や原爆の恐ろしさを次の世代に伝えていく事」です。講話を始めて十九年、初めは、あまり真剣に聞いてくれないのではないかと不安だったが、意外と真剣に聞いてくれてとても嬉しかったと言っていました。

今は、戦争体験者が少なくなっています。また、体験者でも、自分が体験した話を話したくないという人がたくさんいます。ですが、その中でも、小峰さんのように、戦争のことを私たちに伝えてくれる人がいます。その人達のおかげで、今の私達は戦争のことを知ることができています。ですが、この伝えていく人がいなくなったらどうなると思いますか。

私達は、戦争の悲惨さ、恐ろしさを忘れてしまいます。そのような状態にならないように体験者ではなくても戦争のことを伝え続けていくことが大切だと思いました。

小峰さんのように、戦争が終わっても、まだ心や体に傷を負っている人がたくさんいます。それは、私達が暮らす沖縄でも同じです。沖縄にも、戦争で今も苦しんでいる人がいます。だから私は、戦争・原爆で今も苦しんでいる人達の想いを、できる限り多くの人に伝えていきたいです。

## 派遣生徒報告



### 「平和大使で学んだこと」

嘉数中学校 1年  
金城 七星

私は平和大使として、いろいろなイベントに参加し、いろんなことを学びました。沖縄戦や、長崎のことを学び、改めて戦争はしてはいけないことだと思いました。

私は、あるイベントで今の沖縄戦の雰囲気と戦争時の雰囲気が似ていると聞き少しだけ「やっぱり」と思いました。理由はそのイベントで、戦争を起こすまでのことを考えたりしたとき、誰も「戦争を起こしてはいけない」などと言わず楽しそうにやっていました。でもそのイベントのおかげで、今の雰囲気を直そうと思うことができました。

私達は、ピースフォーラムや式典に参加するために8月7日～10日の4日間長崎に行きました。長崎では、出島資料館や、原爆資料館などに行き、いろいろなことを学びました。2日目と3日目はピースフォーラムにも参加し、被爆体験講話をしてもらったりしました。

講師と教え子の像やふりそでの少女の像などを見たり、その像に込められている意味なども分かり、とても勉強になりました。

ピースフェスタでは大学生、ピースフォーラムではピースボランティアの方々が、皆が少しでも楽しみながらできるように盛り上げてくれ、とても楽しくできました。

この体験を通して、私は戦争を起こしてはいけないという気持ちを、いろんな人達に伝えていこうと思いました。

## 派遣生徒報告



### 「長崎に行って」

嘉数中学校 1年  
座間味 優奈

私は、平和学習派遣で、多くのことを学ぶことができました。

まず、原爆が人々にどのような影響をもたらしたのか、そのおそろしさを、さらに知ることができました。地上戦の沖縄とは違い、ほんの一発ですべてを奪われたそんな感じがしました。

また、ピースフォーラムを通して私は、自分から関わることの大切さを学びました。他の県の人達も大勢集まっていた、結構不安だったけど、話してみれば面白い人がたくさんいたので、安心しました。そのとき私は、敵だ、と戦争を始める前に、もっと考えて、しっかり向き合えば、あんな被害が出ることもなかったのではと思いました。

更に、最初は恥ずかしがっていた私達八人が、集まって遊ぶ程仲良くなったことが良かったです。事前学習会の頃は、女子は女子、男子は男子、そして学校で行動することが多かったけど、今では普通に混ざって行動できるようになっていると思います。

この派遣を通して私は、もっとたくさんの人と関わろうと思いました。

今までもたくさんのお会いがあったけど、いつも一緒なのは同じクラスのそれも仲のいい人達だったので、クラスが一緒になったことがない人はあんまり仲良くありませんでした。これからは、もっと積極的に、たくさんの人と仲良くなろうと思いました。

振り返ってみて私は、本当にたくさんのお話を学べたと思います。戦争や原爆のおそろしさやおろかさ、人々の命の尊さ、そして平和の大切さ、人との関わりのおおきさなど、いろいろなことを学びました。これからは、この学んできたことを忘れず、「まわりの人々へ発信する」ということを頑張りたいです。そして、平和のために努力していきたいです。

この派遣事業を企画してくださった方々、そしてサポートしてくれた先生方や市役所のみなさん、本当にありがとうございました。

# 派遣生徒報告



## 「戦争の恐ろしさ」

宜野湾中学校 1年  
知念 李樹

平和学習に参加して、二つの戦争を学びました。

一つは、沖縄戦です。ぼくは、体験者でもないので最初「ただ戦争があつて多くの人が亡くなったんだ」と他人事のように考えていました。だけど、調べてみると、沖縄戦で亡くなった県出身者十二万二千二百二十八人そのうち一般人が九万四千人、軍人が二十八万二千二十八人という、とても多くの人たちの命が奪われました。その中でも戦争に関係ない一般人が九万四千人も亡くなっていると聞いたときは、とても驚きました。たとえ戦争で生き延びていても大切な友達などを亡くし、体験者の体の傷や、心に大きな傷跡を負わせた沖縄戦は、とても恐ろしく悲惨で、多くの一般人の尊い命を奪った、唯一の地上戦だということが学習を通して分かりました。

二つ目は、長崎、広島に落ちた原爆の戦争の事です。このことも何も知らないもので、ただ原爆が落ちて亡くなった人がいるだけだとしか思っていませんでした。けど、原爆は一瞬にして長崎市をほろぼすほど、すごく恐ろしい原爆と知って心が痛くなりました。犠牲者は、十四万八千七百九十三人、その中で亡くなった数が、七万三千八百八十四人、重軽傷者が七万四千九百九人という多くの人々の命と体につけました。原爆の戦争と、沖縄の地上戦は全く違うけど、共通点が一つあります。それは、戦争の関係のない人たちの尊い命を奪ったことです。ぼくは今、平和な日本に生まれてとてもうれしいと思いました。毎日、何も考えずただ過ごしていたけど、戦争の話聞いて、戦争の時は、いつ殺されるか分からない恐怖の中で過ごしていたのかと、とてもかわいそうに思いました。

ぼくが今、できる事は、戦争の体験者や被爆者などが高齢者になり、どんどん少なくなっていることが分かりました。もっと戦争のことを勉強し、もっと深くまで知って次の世代の人たちに伝えていくことがぼくの今できることです。皆さんが、普通に過ごせるのは、とても幸せだということを平和学習で学び、多くの人に伝えていきたいです。

# 派遣生徒報告



## 「平和な世界の築り方」

宜野湾中学校 1年  
仲村 彩葉

私は、この四日間でたくさんのことを学びました。原爆の被害の大きさ、被爆者のやけど、どれも目を背けたくなるほど悲惨なものでした。その中でも一番心に残った話は、被害者、小峰秀孝さんの被爆後の話です。小峰さんは、お腹と足の甲にひどいケガをおいしました。そのせいで学校に行くのにも一時間以上かかり、学校では番長やその子分にいじめられ、周りの人は誰も助けてくれず、生きるのがつらかったそうです。今でも思い出すとつらいと思います。それでもこうやって私たちにお話してくださるのは、この話を心に留めておくだけではなく、みんなに考えて欲しいからだと思います。私が思っていたより戦争は、心にも体にも深くて広くて、長い傷をつけます。戦争が終わっても、被害者は苦しみ続けているのです。二日目のピースフォーラムでは、被爆の実相の話を知ったり、紙芝居を見たりしました。また、「戦争の原因とみんなにできる解決策」について意見交換をしました。そこで、私が考えもしなかった意見に気づき、共感することができ、深く考えさせられました。戦争は、自己中心的な行動から生まれます。それをどうしたら解決できるかという、相手の立場で考えることです。「今、自分がしようとしていることは、相手にとってどうなのか？」というふうに、いつも自分に問いかけていられるかということです。これは、私たちが幼い頃から親に教わってきた、当たり前なことではないでしょうか。今、自分たちが当たり前のことが当たり前でできる状態で大人になれば、自己中心的な行動はなくなり、戦争をなくすことができるのだと考えました。また、ピースフォーラムボランティアにも参加してみたいと思いました。私もボランティアの人達のように、戦争や平和の大切さを発信する側になりたいと思いました。この平和学習をとおして、改めて戦争や平和のことを考えることができました。そして、私の中で、平和というものがもっと重く大切なものになりました。被爆者がこれ以上苦しまないように、これからの未来のために、「もう二度と戦争をしない」という言葉だけではなく、「どうやったらもう戦争はおこらないか」そしてそれを行動に移すことまでもしなければなりません。その行動は、相手の立場を考えるという簡単なことから始まるのです。今回、多くのことを学びました。それをたくさんの人に伝えていきたいと思います。これから私たちが生きていく世界が平和であるために、今、自分にできる些細なことから一生懸命やっていこうと思っています。

# 実施要綱

## 宜野湾市平和学習派遣事業実施要綱

### (目的)

第 1 条 この要綱は、市の平和行政の推進を目的とする宜野湾市平和市民啓発事業の実施により市内生徒を原爆被爆地に派遣し、平和に関する学習、交流等を通して平和の尊さを学び平和思想に対する啓発を高めるために、市内生徒のなかから派遣される生徒(以下「派遣生徒」という。)を選抜すると共に、その役割及び平和学習派遣事業実施等に関する基本的な事項を定めることを目的とする。

### (派遣生徒の選抜)

第 2 条 派遣生徒は、思想、信条、宗教の如何を問わず広く平和を愛する市内生徒のなかから以下の要領で選抜する。

- (1) 派遣生徒は市内各中学校区から 2 名選抜し、定数は 8 名以内とする。
- (2) 派遣生徒の対象学年は中学校全学年とし、選抜方法については各学校長に一任する。
- (3) 派遣生徒は各中学校長名での推薦書(様式第 1 号)及び保護者の派遣同意書(様式第 2 号)を市長に提出し審査後、市長が派遣を決定する。
- (4) 派遣が決定した後に、派遣生徒本人からの辞退申し出があった場合はさらに同一中学校区より補充し、決定する。

### (役割)

第 3 条 派遣生徒は、日本国憲法の理念を大切にし、戦争のない社会、ひとりひとりの生命を限りなく大切に作る人間尊重の社会を創り、それを発展させるための平和交流及び日常的に生活の中で平和について積極的な活動を行うことを役割とする。

### (平和学習への派遣)

第 4 条 派遣生徒は、市の計画する以下の内容の平和学習派遣事業に参加し、平和への認識を深める研修・交流活動を行うものとする。

- (1) 平和学習派遣は 8 月に実施し、派遣先は広島市、長崎市のどちらかを市が決定する。
- (2) 派遣期間は原則として 4 日以内とする。
- (3) 派遣生徒は市の計画する事前学習に積極的に参加するものとする。



(費用負担)

第5条 平和学習派遣に係る費用負担については以下のとおりとする。

- (1) 派遣に関する費用(実費)については、旅費・交通費、宿泊費、食卓費、旅行保険費用については市の負担とする。但し、事前学習の交通費については派遣生徒の負担とする。
- (2) 平和学習に関する費用(実費)については、参加料、講師料、施設入館料については市の負担とする。
- (3) 事前研修及び派遣期間中に派遣生徒の責任により生じた経費及び疾病などによる経費は派遣生徒の負担とする。

(随行員)

第6条 派遣期間中においては、下記のいずれかの職員が派遣生徒を随行するものとする。

- (1) 教育委員会職員
- (2) 中学校教員
- (3) 事務局職員

(派遣後の報告書の提出)

第7条 派遣生徒は、派遣事業終了後、以下の内容で報告書を提出しなければならない。

- (1) 派遣生徒は派遣事業終了後1ヶ月以内に市長へ報告書を提出する。
- (2) 前号で定める報告書は、400字詰め原稿用紙2枚以上とする。

(事務局)

第8条 本事業の事務局を平和行政担当課に置く。

附 則(平成17年6月8日決裁)

附 則(平成24年4月12日決裁)

この要綱は決裁の日から施行する。

# 世界平和を希求する 反核軍縮平和宣言都市



## 平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

1985年（昭和60年）3月18日  
宜野湾市

資料提供 長崎市 被爆継承課

発行 宜野湾市  
市民協働推進課 平和・男女共同係  
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1  
TEL 098-893-4119 FAX 098-892-7022  
HP <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>